

小松市立学校PTA連合会

PTAだより

第60号

<市P連事務局>

〒923-0927 小松市西町25番地
平成集義記念館内
TEL (0761) 23-2478
FAX (0761) 23-0902
pta@kec.hakusan.ed.jp

平成15年10月1日発行
市P連広報委員会

印刷: マルト印刷工業株式会社

平成十五年度小松市立学校 PTA連合会会長として



小松市立学校PTA連合会会長

山 本 博 之

小松の子どもたちは、将来この地球に貢献できる子どもに育っているでしょうか。そして子どもたちは、自分の存在がこの世に必要とされていると自覚しているでしょうか。

親や先生は、家庭や学校で、子どもたち皆を世の中で役立つように育てているでしょうか。

そして私たち大人は、子どもの目線にたって考える事が出来ているでしょうか。

現在の情報化社会、それは便利さの反面恐ろしさを兼ね備えた社会環境です。大人は情報を管理しきれず、子どもはそれが正しい情報なのかを判断できていません。便利だと言って使われてきた携帯電話やインターネット、それは使い方を間違えると犯罪の道具となってしまう。そんな道具が家庭や学校そして地域に氾濫しているのです。家庭でもっと教育してくればとか、学校の責任だとか、地域がもっと協力してくればとか、互いの責任のなすり合いをす

るのではなく、私たち大人が協力し合い、地域の財産である子どもたちを育てていかなければならないと思います。

ハード面では日本社会の構造改革という流れの中、教育改革においても昨年より完全学校週5日制、新学習指導要領が施行されるとともに、成果と問題点が様々な形で現れています。より正確な現状把握と問題提起そして解決に向けた施策を行政に提言できればと思います。

本年も、35校の保護者の皆さんと共に考え行動できるPTA連合会となるよう努めて参りますので、会員諸兄のご協力を賜りますよう宜しくお願い致します。



家庭の大切さ

小松市立学校PTA連合会顧問 北村 嘉章

年々便利さが増す中、その恩恵を享受するだけで、反面便利さに隠されている恐ろしさに対しての認識が欠如しているのが、大人社会の実態であろう。このことが子どもたちに対しても影響を与えているのではないだろうか。すべてのものは我々の扱い方でプラスにもマイナスにもなる。刃物・車・携帯電話等すべてに言えることである。まず大人達が一人一人社会性とバランス感覚を身につける確かな判断力を培うことが先決であろう。子どもたちは大人の様子を常に観ており、自然と見做ってしまっている。増して家庭の中での親子関係はそうである。いかに親の姿勢や考え方が大切か。持たせていけないものの、判断力を身につけさせ持たせるもの様々であるが、すべて親の責任であると考え。子どもたちの「みんな持っている」「みんな買っている」といった甘えの言葉に親は惑わされることなく毅然とした態度で接するべきであろう。これからもっと不透明な時代を迎える。科学文明が一層発達する中、社会集団秩序の矛盾化が進展するに伴い、最小集団である家庭といった役目、役割が一層重要な位置付けになると考える。私を含め世の親はもっともっとしっかりとしなければならぬ。

まず親が手本となる行動をしよう。

子供達に何でもかんでも与えないでください。

しかし、時には子供達の視点になって考えて上げてください。

頑張れお父さんお母さん。子どもたちのためにすばらしい家庭を！



第4回 石川県PTA指導者研修会

開催 平成15年6月3日(火) ホテル日航金沢

報告 小松市立学校PTA連合会副会長 本村 与茂
石川県PTA連合会副会長

研修主題「石川の学校教育振興ビジョンに学ぶ」

この研修会では、先般、石川県教育委員会が策定した「石川の学校教育振興ビジョン」を将来の教育に具体的な展望を拓くものと受け止め、ビジョン策定の意図、新しい時代にふさわしい教師像と研修、時代が要請する学校づくり、教育の原点としての家庭や地域の課題など、講話を通してこれからの教育への理解を深めるとともに諸課題解決の機会とし、活用できればとの思いから開催されました。

お忙しい中、講演頂きました講師の皆様および講演の演題は右のとおりです。

「石川の学校教育振興ビジョンに学ぶ」

- ①「石川の学校教育振興ビジョン」策定にあたって
石川県教育委員会学校指導課課長補佐 塩 泰尚 氏
- ②新しい時代にふさわしい教師像と教職員研修の充実について
石川県教育委員会教職員課課長 金田 清 氏
- ③時代の要請にあう学校づくりについて
石川県教育委員会学校指導課課長 加藤 茂芳 氏
- ④家庭・学校・地域の連携と家庭教育の充実
石川県教育委員会生涯学習課課長 藏 定伸 氏

石川の学校教育振興ビジョン策定の趣旨

子どもたちの教育を取り巻く課題に適切に対応するため、もう一度教育の原点に立ち返り、石川の地で学び、石川の未来を担う子どもたちが、夢と希望をもって羽ばたくことができるよう、学校・家庭・地域社会が連携し合う地方からの教育改革の実現をめざすものであります。

- 【基本理念】** 「いしかわ」の大地と人に学び、未来を拓くたくましい力をはぐくむ
- 【めざす人間像】**
1. 確かな学力を身に付け、個性や創造性に富む人間
 2. 責任とモラルを重んじ、人を思いやる心豊かな人間
 3. 健やかな体力の増進に積極的に取り組む、活力ある人間
 4. ふるさとに誇りをもち、広い視野にたって社会に貢献する人間

詳しくは→<http://www.pref.ishikawa.jp/kyoiku/gakkou/vision/index.htm>



感想

時代の変化にともない、子どもたちを取り巻く環境の変化や状況に今一度、教育の原点に立ち返り、親として子どもたちの為に何が出来るかを真剣に考えることが必要であると感じました。このビジョンもこれからの教育の方向性をしめすとても重要なものではありますが、ビジョンとは万能薬ではなく、ビジョンを活用し推進してこそ成果が得られるものであります。

平成15年度 第1回会長研修会

【テーマ】

「地域の特色を生かした教育について」

～世界から石川 小松へ～

世界ジュニアカヌー選手権大会in小松

とき 6月17日(火) ところ 第一地区コミュニティセンター

講師 国際カヌー連盟FWR委員
石川県立小松商業高校カヌー部監督 古谷 利彦氏

研修会の冒頭、小松市教育委員会保健体育課の村中進さんが、木場潟で開催される第10回世界ジュニアカヌー選手権大会の概要を解りやすく説明されました。北陸では過去に例を見ない大規模な国際大会であり、木場潟の豊かな自然と景観美が誘致に大きく作用した点も強調されました。また、大会本部としては、このめったにない国際交流の機会を、積極的・自主的に活用して欲しいとのお願いがありました。

研修会のテーマである古谷利彦さんの講演では、カヌー競技の色々な国での世界大会に参加して経験した文化交流や、各国で接したボランティアの様子を、映像とともに紹介して頂きました。そして、次のようなキーワードを提示されました。

2つのR・2つのD

Responsibility(責任)
Respect(尊敬・敬意)Devotion(献身)
Dream(夢に向かう挑戦)

言います。古谷さんにとって、この国際大会実現はまさに“夢に向かう挑戦”であったわけです。何事に対しても、“やればできる・挑戦しよう・夢を持ってがんばろう！”と、次代を担う子ども達へメッセージを添えられました。

世界各国の文化には、所変われば品変わるといのように、色々さまざまな文化（文化の多様性）があり、各国によってボランティアに対する考え方の違いもあるけれども、すばらしい人々たちとの出会いからは、必ずこのキーワードにたどり着くとのことでした。民族・宗教・言葉の違いを超えて共通なもの（文化の普遍性）は必ずあり、そこそDreamであると

ようこそ日本へ！
がんばれルーマニア

蓮代寺小学校育友会

蓮代寺小学校では、木場潟での世界ジュニアカヌー大会に出場するルーマニアチームを交え、8月24日(日)恒例の親子レクリエーションを行いました。

最初は大柄な選手達に親も子も圧倒されそうな感じでしたが、肩車での記念写真など、そのフレンドリーな態度によって、一気に打ち解けました。それから選手達によるカヌー指導、私たちからの習字や折り紙、ゆかたの着付けなどを行い、「言葉は通じなくても心は通じる」を親も子も実感した1日でした。



母親である喜びを 楽しみを



母親委員会担当校長
奥村 明子

毎日、毎日忙しいお母さん。お疲れの顔をしていませんか。子どもたちと明るく元気に過ごしていますか。

「そんな、毎日明るい顔しとれんわ。」
と言っている人はいませんか。子どもは次から次へといういろいろな問題を持っています。いつも額にしわを寄せて叱つていても、明るく楽しくしていても同じように日は過ぎていきます。

小学校入学くらいまでの子どもは、お母さんが必要として目で口で行動で一生懸命お母さんを追います。

母親っていいですね。こんなに求めてくれる自分の子どもがいるのです。もう一度原点に戻って、こんな子どもの母親である喜びを感じてください。そして、こんな子どもと一緒に毎日生活できる喜びと楽しみを味わって欲しいと思います。子どもはどんどん成長していきます。すぐ親から巣立つていく時期がきます。時には、親がうるさいとか、わずらわしいようなことを言っても、実はまだまだ心の奥底では親を必要としている部分があるのです。受け留めてくれる親を待っている心があるのです。そんな子どもの心が見える母親でありたいですね。それには、子どもと一緒に物事をする時間を作ること

第2回 母親委員会「教育長さんと語る会」

6月25日(水) 第一コミュニティセンター

今回、初めての試みとして、矢原教育長さんと「教育改革をどう捉えるか」について話し合いました。

①「5+2」のリズム

- 週休2日、この残りの2をどうするか。

② 確かな学力

- 「学んだ力」と「学ぶ力」とは、知識と知恵であり、学ぶ力が大切である。
- 学習意欲を喚起する家庭の関心
ー「勉強しなさい」だけではいけない。
- 変わる学校ー少人数・習熟度、総合的な学習、選択教科
- 学校と家庭の連携



だと思えます。「お手伝い」は「手で伝える」と書きます。「お手伝いしなさい。」
といって自分は他の事をしているのではなく、子どもと一緒にして、物事の道理・親の気持ちを伝えていく「お手伝い」をしてみてはいかがでしょうか。

③ 豊かな心

- 読書の力「金子みすゞの視点」
- 「心」が学力を支える
- 子供歌舞伎から教育を学ぶ

④ まず大人が

- あらさがし文化とほめる文化
- コミュニケーション能力は、大人の問題
- 「家庭教育ノート」を作らせた小松のPTA



教育長さんの話を聞き、家庭教育の大切さがよく判りました。親が子どもに関心を持ってあげることによって子どものはげみになることや、豊かさが心をますます豊かにさせていて、それは大人がまず豊かにしているということ。芸術・音楽は本物を見せてあげる等、心の大切さを感じた語る会でした。

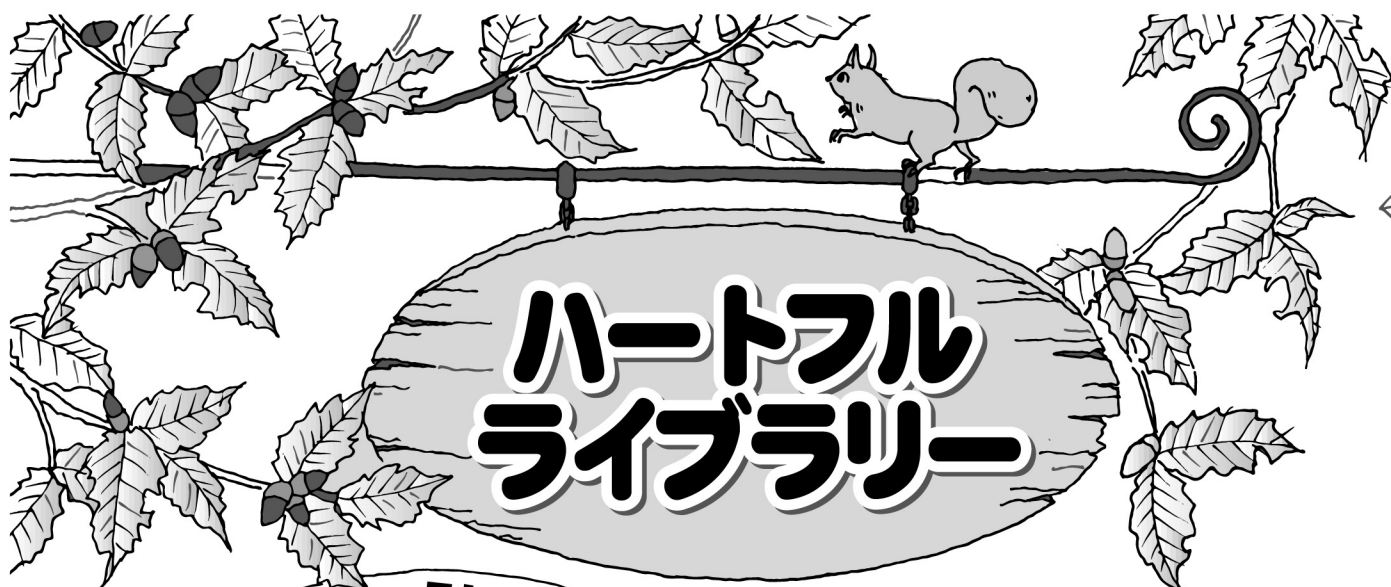


今年度の母親委員会の
ページは私たちが
担当します！

子ども達に関係した心を痛める事件が日々伝えられています。原因はどこにあるのでしょうか。
うちの子に限って……とよく耳にしますが、我が子は大丈夫なのではないでしょうか。
私達母親委員会は、担当校長先生をはじめ各単Pの代表35名と役員3名の、この様な疑問を持つ極普通の母親で構成されています。
集まると家庭の事、学校の事、社会の事と話しが止まませんが、皆わかあいあいと楽しく活動しています。そんな中、委員会や行事が終わることに得るものはいろいろとあります。
1年後には、一回り成長した母親があちこちで見られるでしょう。

楽しんでま〜す

委員長 米川 由美

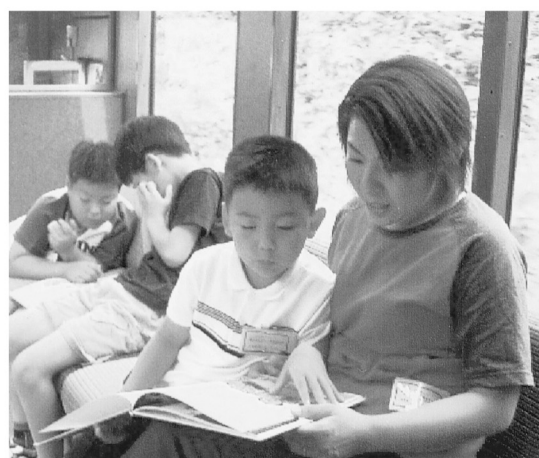


親子ミステリー列車

7/20
(日)

直江津

レッツゴー!!



子供達の感想

●手品のおみやげをもらってうれしかった。お父さんにしてみたい。

(幸末)

●窓からの景色も良かったです。友達もできていい一日になりました。

(利衣)



ミステリー列車に参加して本をたくさん読んだり、図書館へ行ったりして、本が大好きになりました。

(知恵)

母親の感想

●以前から気になっていたハートフルライブラリー列車でした。行先不明と言う事もあって、前の晩から大人げなくドキドキ。お話には聞いていましたが、なんとステキな列車でしょう。広い車内、見晴らしの良いテラス、そしてたくさんの絵本。実は息子は本があまり好きではなく困っていたのですが読み聞かせや、頂いた絵本を一生懸命読んでいました。係の方のハートフルな対応、ライブラリーの旅にとっても感謝しています。

(良枝)

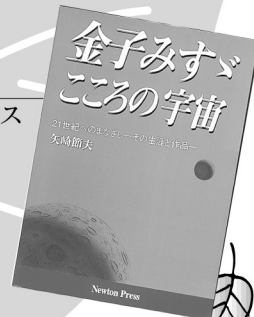


読んでみまっし

「金子みすゞ
こころの宇宙」

矢崎節夫／ニュートンプレス

みすゞのまなざしは地球、そして地球を越えた宇宙とも向かいあい、ひびきあいこたましあう。そんな金子みすゞとその作品に作者が見て聴いて、考えたことを読者と共に本の中で旅をしていく。



市P連研究大会

石川県PTA地区別研究指定発表会・第46回小松市PTA研究大会がこまつドームにおいて西村市長をはじめ多数の来賓のご臨席のもと、盛大に開催された。

全体会では、御幸中学校PTAが「組織・運営」、木場小学校育友会が「家庭教育」、符津小学校育友会が「家庭・学校・地域連携」領域において各PTA組織の実践に基づいた研究発表がなされた。いずれの発表も領域こそは異なるが新しい教育の時代にふさわしく地域とのつながりを重視したPTA活動の発表であった。内容としては、御幸中学校PTAでは、組織の運営を地域を念頭に置いたものとし、地域全体で子どもたちを育てるための体制作り、木場小学校育友会では、「餅つき大会」や「家族湯つたり」など地域を巻き込んだふれあい活動や「父親を引っ張り出した」親子行事やビデオテープ整備、符津小学校育友会では、「まちづくり学習」を通じたまちとの連携が



紹介された。これらの実践は、PTA活動を学校と保護者だけでなく、地域を巻き込んだ活動とすることにより、地域社会の教育力を高め、地域ぐるみで子どもを育てようというものであるべきか、方向を示した研究発表であった。

引き続き、分科会に分かれて、それぞれの活動に対してより深い意見交換が熱心に行われた。

また、開会式においてPTA活動や子どもたちの健全育成にご尽力されている方への表彰が行われた。

◇小松市教育委員会表彰状受賞者
安井秀樹さん、岩根昌子さん
本村与茂さん

◇小松市立学校PTA連合会会長
感謝状受賞者

宮本正男さん（日末小学校）
山田整耕さん（矢田野小学校）
小嶋健男さん（那谷小学校）
高山 章さん（粟津小学校）

「地域とのつながりを大切にしたPTA運営のあり方」

御幸中学校PTA会長 松原 啓

八月三日の発表会当日、緊張感の中で全体会での発表を迎えました。前日のリハーサルでは、他校の発表がより良く見えました。が、「今まで準備したこと」に自信を持とう」と皆で確認して本番に臨み、本校PTAの実践を参加者の皆さんに投げかけました。また、どのように展開するか心配もした二つの分科会も、予想したより活発な意見交流ができ、大変有意義なものとなったと自負しています。

「組織・運営」とのテーマをいただいて、まず研究組織の立ち上げ、実質的な研究の推進、まとめと発表会の準備、そして当日まで、息つく間もないこれまでの歩みの中で、第一の成果として挙げられるのは、役員・委員が一つの目標に向って協働し、互いにより深く知り合い、人の和が広がり、強まったことだと言えます。そして、発表を終えた今だから言えるのかも知れま



せんが、心地よい充実感や成就感を感じているのは私一人ではないと思います。この人の和を大切な財産として、今後のPTA活動に生かしていきたいと思っています。

もちろん、足掛け三年の研究発表会までの歩みの中で、「発表のための研究であつてはならない」ということを常に再確認し、研究を契機として、これまで御幸中学校PTAの組織・運営上の課題を少しでも改善するという実質を求めてきました。組織の改編とスリム化・地域との連携のための組織作り・校区小学校のPTAとの連携強化など、この間に進めてきたことに今後さらに積極的に取り組み、「参加しやすいPTA活動」「充実感・成就感の持てるPTA活動」を目指していきたいと思っています。

研究指定発表会 PTA研究大会 生きいきと輝くために

平成15年
8月3日(日)
こまつドーム

県PTA地区別研 第46回小松市

「ひとり一人の子どもが、

「深めよう 広げよう
心のきずな」

符津小学校育友会会長 西村 健一

「家庭・学校・地域の連携」の課題について、計画の立案に悩み・周囲の説得に苦しみ・まとめる事に喘いだ11ヶ月間でしたが、ようやく研究発表会を終えることができました。

計画の立案にあたって、符津小学校では、学校活動においてもPTA活動においても多くの「まちの先生」に協力頂いており、これまでのような活動を重ねることにより、実りある「家庭・学校・地域の連携」についての研究が行えるかと考えた際に、「まちの先生」からの協力だけでは家庭と地域の関係の希薄さは改善できないの結論に至りました。なぜなら、これまでのただ与えられるだけの関係からは、児童・保護者の地域への関心は高まっていけないと感じたからです。そうして考えたなかで出てきた計画が、「まちづくり学習」による家庭・学校・地域の連携でした。役員の交代もあり、「まちづくり学習」実施まではうまくイメージを伝えることができない面もありましたが、実施の結果は、参加者からの評価も高く、同時に大きな成果がありました。まちの歴史やよいところを



まちの先生から学び、実際にまちを歩き、マップを作成することにより、児童・保護者ともに地域への関心・愛着が高まりました。内容ある親子レクリエーションを、楽しく実施することができました。まちづくりの提案を地域の方々に行い、改善の機運を高めることもできました。それともう一つ加えると、実施までは大変そうに思えたことが、実施してみると予想よりも容易に行えたということもあります。次回実施の際にも、取り組みやすくなったと思っています。このように、研究発表校の指定を受けたからこそ取り組んだ「まちづくり学習」ですが、私も育友会にとっても、実り多いものになりました。

最後になりましたが、分科会には多数の方々にご参加いただき、また、好意的なご意見ご感想ならびに励ましを頂きました。この場をお借りし、厚く御礼申し上げます。

育友会活動を通して

親子のふれあいを考える

木場小学校育友会会長 金谷 和久



今回、木場小学校に与えられたテーマは「家庭教育」でした。

この発表にあたって、昨年の12月頃から実行委員会を組織して取り組むことにしました。毎年育友会役員は3月頃に決めていましたが、今年は発表の年ということで、早めに役員を決定し、実行委員となって参加してもらいました。

さて何を発表しようかとみんなで意見を出し合い、内容を3つに分けました。グループごとに内容をまとめ、毎月計画的に集まって今年の3月頃には文章までできあがりました。私たちは「家庭教育」とはいったい何か？と考えました。よく考えると毎年行っている育友会行事そのものであるとつくづ

く思いました。これを次の年・・・さらに次の年と続けていくのは大変なことだけれど、これを続けて行っているからこそ今年の発表ができたと思います。

終わってみればとてもいい経験ができました。役員的一致団結と先生とのコミュニケーション、また、今までの行事を続けて下さった歴代の役員の方々のおかげだと感謝しています。

最後に、市P連の役員の方々、参加をされた皆様、誠にお世話になりました。10月に行われる東海北陸の発表も頑張ります。

第59回 東海北陸ブロックPTA研究大会 名古屋大会

キラキラと未来に輝く子ども達のために
～ともに語り、学び、実践するPTA～

【と き】平成15年10月17日(金)・18日(土)

【ところ】名古屋国際会議場

17日(金)の第2分科会(家庭教育)において、木場小学校育友会の発表が行われます。

第2分科会テーマ

「教育の原点としての家庭を見直す取り組みを進めよう」

小松市は、すべての小中学校がホームページを持つという県内でも有数の学校の情報化が進んだ地域です。市Ｐ連でもこの流れに遅れまいと、今年度は、従来の広報紙に加え、ホームページを使って、皆様に活動内容をお知らせすることになりました。広報紙では、市Ｐ連の活動や単Ｐの紹介を中心に、ホームページでは、広報紙ではできなかった各種情報の迅速な提供や単Ｐ間の交流を目指していきたいと思っております。まだまだ、開設したばかりで、皆様からご意見・ご感想ならびに各種情報を頂き、徐々に充実させていきたいと思っておりますので、ご協力をお願いいたします。なお、最後になりましたが、快くご協力いただきました小松市教育センタならびに芦城小学校の方々にこの場を借りてお礼申し上げます。